

## 植物多様性センターの「ササとタケ」

ササとタケは同じイネ科の植物ですが、稈(かん)と呼ばれる茎の部分に、成長しても皮がそのまま残るのがササ、脱落するのがタケとされます。ヤダケは稈に皮がついたままなのでササ、逆にオカメザサは皮が脱落するのでタケということになります。関東地方の雑木林の林床に多いアズマネザサは、放置すると大きくなり邪魔者扱いされがちですが、生物多様性の観点からは、小動物の隠れ家や昆虫の食草としても重要とされています。



ヤダケ: 弓矢に使われる大型のササ。稈は皮に覆われる



オカメザサ: 庭園に植えられることの多い小型のタケ。皮は脱落



アズマネザサ: 年に数回刈ると小型に、放任すると藪になる



クマザサ: 冬になると寒さと乾燥で縁から枯れこんで隈取になる